

山新
米沢スポーツ・ビレッジ構想

実現へ市に要望書

推進会議

米沢市南原地区で、人工芝サッカーグラウンド三画を備えた「米沢スポーツ・ビレッジ構想」を打ち出している推進会議（種村信次代表）は一日、市民から集めた二万五千八十七人の署名を添え

構想の早期実現を求める要望書を安部三十郎市長に提出した。サッカーの普及や強化はもちろん、県内や東北の大規模大会誘致が可能となり、多大な経済波及効果が期待できるとし

二〇〇八年度からの市まちづくり総合計画第二期実施計画の中に事業を盛り込むよう求めた。この日は、種村代表のほか、発起人の築川勇三（南原地区）、淀川泰正（NPO夢創工房、佐藤攻（米沢地区サッカー協会）の各氏が市役所を訪れ、安部市長に要望書を手渡した。

10/2
山新

25,087人の署名簿提出 米沢



要望書を手渡す種村会長（中央）

人工芝サッカーグラウンド設置を

米沢スポーツ・ビレッジ推進会議（種村信次代表）は一日、米沢市役所を訪れ、人工芝サッカーグラウンドの早期建設を求める署名簿二万五千八十七人分と要望書を安部三十郎市長に手渡した。

安部市長は「二万五千八十七人の署名について「重く受け止めさせていただくと語った。署名活動は、今年六月十八日から九月三十日までにわたって行われてきた。九月までに設定した

目標人数二万二千百十一人を早期に達成したため、米沢市の人口約二割にあたる一万八千人に拡大再設定した。最終的にはさらに上回る署名簿が集まった。

要望では、同推進会議が策定した米沢南工業団地の一部を借り受け、人工芝のサッカーグラウンド二画、五百台を超える駐車場などを盛り込んだ米沢スポーツ・ビレッジ構想の早期実現と米沢市まちづくり総合計画第二期実施計画へ盛り込んでもらおうと訴えている。

市役所には、種村代表を関係者が出席。種村代表が要望を読み上げて安部市長に手渡した。実際に人工芝のサンプルやスポーツビレッジ構想の図面などを会場を持ち寄り見てもらおうとともに、種村代表は「地区スポーツのレベルアップに大きく寄与する」と理解を求めた。